中毒症

▶使用器具　▶評価ポイント

中毒症を沈静化する処置。注射器で鎮静剤（黒色の液体）を吸引し、投与すれば完了。中毒症が完全に浸透すると回復剤の投与が「Miss」になるので素早く処置したい。



中毒症が発生すると臓器が紫色に変色し始める。完全に浸透するまえに鎮静剤を投与して沈静化しておきたい。

【手　順】

1	注射器	鎮静剤を投与する

特殊腫瘍

▶使用器具　▶評価ポイント

3本の血管で患部を支えている腫瘍を摘出する術式。この特殊腫瘍は、ドレーンで組織液を吸引し、腫瘍を支えている3本の血管にメスを当て続けて切除し、ピンセットで患部を回収するという手順で治療ができる。ただし、特殊腫瘍が複数発生しているときは厄介になり、ひとつを処置しても、ほかの特殊腫瘍が残っていると、一定時間経過後に摘出した患部に再び特殊腫瘍が発生してしまう。そのため、複数の特殊腫瘍が発生した場合は、すべての患部を血管の切除まで行なっておき、最後にまとめて回収トレイに乗せて一気に摘出するという対処法が必要になってくる。なお、特殊腫瘍は発生時に小腫瘍を周囲に生み出す。特殊腫瘍の処置後は、忘れずに小腫瘍の治療も行なっておこう。



特殊腫瘍は臓器の上に発生しているので、エコーで探す必要はない。組織液の吸引手順から進めていこう。



特殊腫瘍が複数発生したら、まずはすべて患部を切り離しておき、最後に患部の回収作業をまとめて行なおう。

【手　順】

1	ドレーン	患部の組織液を吸い取る
2	メス	血管×3を除去する
3	ピンセット	患部を除去する

ガーゼパッキング

▶使用器具　▶評価ポイント ○

腎臓の破損部分をガーゼパッキングの手法で対処する術式。破損部分の血だまりをすべて吸引し、追加トレイにある人工膜を6ヵ所すべてに置き、ヒールゼリーで定着させれば術式完了。途中で血だまりが再発すると人工膜が剥がれてやり直しになる。剥がれた人工膜の枚数は評価に影響し、剥がれた枚数だけで評価した場合、2枚以下なら「Cool」、3～5枚が「Good」、それ以外は「Bad」になる。



人工膜をガイドの上に置いていこう。2回以上ミスすると「Cool」評価は獲得できなくなるので正しい場所まで運ぼう。

【手　順】

1	ドレーン	血だまりを吸い取る
2	ピンセット	すべてのガイドに人工膜を乗せる
3	ヒールゼリー	人工膜を定着させる

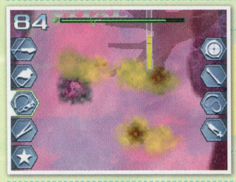
評価ポイントに関わる要素

- 人工膜をミスなく破損部分に乗せる
- 人工膜が剥がれるまえに破損部分を塞ぐ

膿

▶使用器具　▶評価ポイント

腫瘍や虫垂摘出（44ページ参照）など、患部の治療中に出現する膿を吸い取る処置。膿は一定時間で増殖していくのでどんどん視界が悪くなるうえ、炎症も発生させる厄介な病巣。悪化するまえにまとめて吸引してしまいたい。



膿が発生すると下の患部が見えにくくなる。場合によっては膿を取り除くまでその患部の処置ができなくなる。

【手　順】

1	ドレーン	膿を吸い取る

炎症

▶使用器具　▶評価ポイント

臓器内に発生する小さな発疹を処置する術式。炎症発生時は、消炎剤（青色の液体）の入ったビンが出現する。注射器でそれを吸引し、炎症部分に投与することで治療できる。サイズは大、小の2タイプがあり、サイズによって炎症剤を投与する量が異なるが、1回の吸引で数個に投与可能だ。



見た目は地味だが、その数が増えるとバイタルの低下が速くなる。1回の吸引で数個まとめて処置していこう。

【手　順】

1	注射器	患部に消炎剤を投与する

肝臓移植

▶使用器具　▶評価ポイント ○

肝臓側の管と4つの血管を繋げる術式。血管の処置は、静脈、門脈、動脈、胆管の順に行なう必要があり、処置をする血管には収縮剤（灰色の液体）を投与しておき、薬の効果時間に注意して作業を進めなければならない。収縮剤は同じ血管であればどこに投与してもかまわないが、べつの血管に注射器を挿すと「Miss」になる。収縮剤を投与したあとは、血管に表示されるガイドラインにメスを入れて切開部の血だまりを吸引。つぎに肝臓側の管を伸ばして血管の切開口に吻合する。切開口まで伸ばすとピンセットを離すまえに繋がるので、そのあとでピンセットを離すこと。最後に管の接合部を縫合すれば1本分の処置が完了し、バイタルの上限値が増加する。残りの血管も同じように進めよう。



処置している血管と同じ色の管をピンセットでつまみ、血管の切開口まで管を伸ばして正しく吻合しよう。



収縮剤の効果が切れると、繋げた管が外れ、血だまりが再発する。再度収縮剤を投与して処置をやり直そう。

【手　順】

1	注射器	収縮剤を血管に投与する
2	メス	ガイドラインに沿って血管を切開する
3	ドレーン	血だまりを吸い取る
4	ピンセット	管を血管に吻合する
5	針と糸	吻合部分を縫う
6		1～5を繰り返してすべての血管を処置する

評価ポイントに関わる要素

- 収縮剤を正しい場所に投与し、効果が切れるまえに処置をする
- 血だまりが再発するまえに血管の処置を終える
- ミスなく管を吻合する
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある